令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A10

「スポーツトレーナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**江刺 善之 先生、江刺 みゆき 先生**
　　〔所属〕　**アスリートジャパンEsashi**

■ 参加人数　19　人　　講座担当者　阿部　朋美

「スポーツトレーナーの仕事」では、宮城県内を中心にスポーツに関する指導を幅広く展開する「アスリートジャパンEsashi」の代表であり、多くのプロアスリートも指導されている江刺善之先生と江刺みゆき先生を講師にお迎えし、スポーツトレーナーの役割や必要な知識についてお話をいただきました。体験活動も交え、選手を支える仕事について理解を深めました。

1.　スポーツトレーナーの仕事についてのお話



スポーツトレーナーは、選手の体調管理やけがの予防を行い、選手と指導者をつなぐ役割を担っています。また、競技ごとのルールや体の仕組みなど幅広い知識が必要であり、常に学び続けることが大切であると教えていただきました。さらに、選手が安心して力を発揮できるよう、体づくりやコンディション管理を支えることも重要な仕事であると学びました。スポーツを支える仕事の役割や大切さを学びました。

2.　体の仕組みと柔軟性について



人の体には206個の骨があることや、腕を曲げたり伸ばしたりする動き、足を曲げたり伸ばしたりする動きを例に、筋肉が縮む・伸びる仕組みを分かりやすく教えていただきました。

講座では、実際に体を動かしながら、太ももや肩、肩甲骨まわりの柔軟性を確認しました。筋肉は、普段は柔らかく、力を入れたときにしっかり硬くなる状態がよく、柔軟性が高いことはけがの予防やパフォーマンスの向上につながることを学びました。受講者同士で確認し合いながら、自分の体の状態を知りました。

3.　夏の体調管理とスポーツ栄養について



暑い時期の体調管理やスポーツ栄養について学びました。夏バテの原因には、睡眠不足やエアコンによる冷えなどがあり、食事や休養を意識することの大切さを教えていただきました。また、熱中症対策として、体を冷やす方法や適切な水分補給についても学びました。栄養については五大栄養素を学び、特に体づくりや回復を助けるたんぱく質の重要性や、毎食バランスよく栄養を摂取することの大切さを学びました。

4.　まとめ

スポーツトレーナーは、選手やチームを支える裏方でありながら、選手が安全に競技へ取り組むために欠かせない仕事です。体の仕組みや栄養、けがの予防、熱中症対策などの知識に加え、選手に寄り添うコミュニケーション力も必要です。 江刺先生からは、「自分の体を知り、今の自分を認めたうえで、足りないところを少しずつ伸ばしていくことが大切」とのメッセージがありました。また、学び続けながら自分と向き合う姿勢の大切さを教えていただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ ストレッチなどを実際にして、この仕事に興味がわきました。将来の夢に一歩近づいた気がします。　（長町南小　6年生）

○ スポーツトレーナーに必要なことや、自分がスポーツをする時どんなトレーニングをしたら良いのか分かりました。（宮城野中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A11

「パン屋の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**遠藤　裕紀　先生、渡邉　優衣　先生、髙橋　蘭　先生**
〔所属〕　**株式会社パンセ**

■ 参加人数　18　人　　講座担当者　牧田　雅至

「パン屋の仕事」では、株式会社パンセで勤務されている3名の方々を講師としてお迎えして、前半はパン屋の仕事について詳しくお話を聞きました。後半はパンの原型となる小麦粉と水からグルテンを作る体験活動等を行い、パン屋の仕事に直に触れることができました。

1.　パン屋の仕事についてのお話



経営部門・販売部門・製造部門の各担当である先生方から、パン屋の仕事でどんな活動をしているのかの紹介がありました。来店されたお客様にとって「笑顔ひろがるパンの店」になるような工夫をそれぞれの立場からお話いただきました。パン屋を取り巻く環境・買いたくなるような販促方法・おいしいと思ってもらえる品質など、お客様目線で考えたアイデアや取組み等の内容を紹介してもらいました。

2.　パン屋の仕事体験（パンの原型作り）



小麦粉と水でパンの原型を作る作業の体験では、粉と液体がうまく混ざらず、なかなか形が整わなくて苦戦する参加者も多く見られました。続いて、固まった素材を水の中で捏ね続けて、グルテンを作る作業をしました。グルテンによってパンが完成した時の弾性や柔軟性に変化が生じて仕上がりにも影響するそうです。パンをおいしく仕上げる秘密を知った参加者は、パンを買うだけでは見られない、お店の裏側にあるプロの仕事の凄みを知り、驚いている様子でした。

3.　パン屋さんの苦労と仕事の面白さ



パンだけでなく中の具材を調理することもあるので、作業がたくさんあります。来店するお客さんは、その時によって様々な気分を抱えているので、どんな時でもおもてなしの心で接する気遣いが必要です。自分が作ったパンをお客さんが選んでくれた時にやりがいをとても感じます。
＜参加者から質問　どうしてパン屋さんになったの？＞
渡邉先生：トングを使いたかったから
髙橋先生：パンが好きだったから
と、ユーモアたっぷりに答えていただきました。

4.　まとめ

パン屋さんで働く3名の先生それぞれのリアルな体験談を中心に、楽しさと厳しさの両面を伝えていただきました。「パン屋さんになるために特別な勉強はいらないですが、仕事をする中で大変なことが多数あること。」そして、「その苦労以上の楽しさもたくさんあること。」「お客さんが喜ぶ→売上が上がる→給料が増える→もっとお客さんに喜んでもらおう」という相乗効果で、社会に貢献しているという思いを学ぶ機会となりました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 意外にパンをこねるのが難しく苦戦しました。ありがとうございました。　（東長町小　6年生）

○ パンをおいしく、美しくみせるためには、向きにもこだわりがあることに少しおどろきました。（長町中　2年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 A12

「歯科医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 西原 大輔 先生、平田 政嗣 先生、大友 桜 先生
松川 志穂 先生、高橋 佳菜絵先生
〔所属〕 仙台歯科医師会

■ 参加人数 12 人　　講座担当者 阿部 圭太

「歯科医師の仕事」では、仙台市の歯科医院で勤務されている2名の先生を講師としてお迎えし、前半は歯科医師の仕事について詳しくお話を聞きました。後半は、虫歯の治療や歯形の模型を作る体験活動を行いました。歯科医師の仕事について理解を深めることができ、充実した時間となりました。

1. 歯科医師の仕事についてのお話



西原先生から歯科医師の仕事について詳しくお話ししていただきました。歯科医師というと、歯の治療をする仕事というイメージが強いですが、歯の治療だけではなく、口腔内の健康を守ることも大切な仕事であるということでした。また、歯科医師の歴史について紹介していただき、こどもたちも熱心に話を聞いていました。歯科医師になるために、たくさん勉強して多くの研修を受けなければならないことを知り、驚いている様子でした。

2. 歯科医師の体験①（歯の治療）



歯の治療体験では、削った歯の模型にレジン（あとで固める粘土のようなもの）を詰めて治療する作業を行いました。参加者は初めての作業で緊張している様子でしたが、集中してレジンを用紙に塗っていました。実際に歯の模型にレジンを詰める作業になると難しそうなところもありましたが、アシスタントの方に手伝っていただき、上手に取り組むことができました。レジンの色にも様々な種類があり、患者さんの歯の色に合わせて、レジンを変えて治療していくことも大切だという話があり、体験を通して歯科医師の仕事の凄さを実感していました。

3. 歯科医師の体験②（歯型の模型作り）



印象材（柔らかい粘土のようなもの）で歯の型を取る体験も行いました。印象材はすぐに固まってしまうため、実際の治療では患者さんにずっと口を開けたままにさせないようにすることが大切であるという話を聞くことができました。そのため、作業は素早く正確に行わなければならないということを学びました。2つの体験から、患者さんの負担も考慮しながら、同時にいろいろなことを考えて治療を行う歯科医師の仕事の大変さに気付くことができました。

4. まとめ

最後に、西原先生からは御自身が治療を受けた歯科医師の方にあこがれてこの仕事を目指したこと、患者さんから「ありがとう。」と言われることが仕事のやりがいであることなどをお話ししていただき、こどもたちが自分の将来について考える有意義な時間となりました。また、西原先生から「笑顔になる楽しい歯科医院」を目指しているということも教えていただきました。改めて、夢や目標を持ち努力し続けていくことの大切さについて考えることができました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 今日学んだこと、感じたことを家族に話し、将来につなげたいなと感じました。　（七郷中 1年生）

○ とても楽しかったので、歯科医師になりたいと思いました。　（上杉山通小 5年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B01

「音響・照明の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　伊藤　幸夫　先生、畠山　佳也　先生
　　〔所属〕　株式会社東北共立

■ 参加人数　31　人　　講座担当者　小松　亮太

音響・照明の仕事について株式会社東北共立から伊藤幸夫先生と畠山佳也先生をお招きしてお話しいただきました。前半は、裏方として見えない場所からステージを支えている音響や照明の具体的な機材の配置や使い方を教えていただきました。後半では、実際に音響や照明を調整する機材に触れさせていただき、受講生からの質問にもお答えいただきました。

1.　音響・照明の仕事についてのお話

音響・照明の機材を駆使し、舞台やコンサートなどでの演出や技術的なサポートを行います。マイクやライトなどの機材を適切に設置することで、全ての聴衆が良い響きで聞くことができるようにするとともに、出演者の魅力を引き出しています。音響は、演者とサインのやり取りをしながら音量や音質を調整し、照明は、演者の立ち位置によって角度を調整したり、使うライトの種類やフィルターを交換して色を変えたりすることをお話しいただきました。



2.　体験①（マイクのリバーブ体験）

実際にエフェクターをかけたマイクの前に立ち、様々なリバーブ（残響音・反射音）の効果を体験し、普通に話をしている声がマイクを通すことで加工されて響き渡ることを体感することができました。

テレビやニュースで使用される加工された音声が、このように編集されて作成されていることを知り、興味深さと不思議さで、受講生たちは目を輝かせて体験活動に取り組んでいました。



3.　体験②（ミキサーとスポットライトの操作体験）

説明を受けた後には、実際に音響機材であるミキサーの操作体験をさせていただきました。フェーダーと呼ばれるつまみを上下することで音を自在に操り、観客が心地よく聞こえるように調整をしました。ピンスポットライト操作体験では、ステージ上の演者に光を当てることで、舞台の演出に合わせて演者を引き立たせるという照明の効果について体感することができました。



4.　まとめ

働くことについて、「お金を稼ぐということだけではなく、『みんなが気持ちよく生活できるようにすること』『困っている人を助けること』『人のために働くこと』という意味を持っていて、それが大切だと思っている。」とお話しいただきました。最後に、受講生に向けて、「日々の生活の中でのいろいろな経験を自分たちの将来につなげてほしい」と温かいメッセージをいただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 講座を通し、こんな仕事が好きなんだということが分かりました。将来に向けて背中を押されました。　（住吉台小　6年生）

○ 将来AIによって仕事量が減ることがあっても、この魅力的な仕事は人が行うからこそ味があると思います。　（柳生中　3年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 B02

「水族館飼育員の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　海老澤 美海 先生、田口 瑞稀 先生
〔所属〕　仙台うみの杜水族館

■ 参加人数　24 人　　講座担当者 菅原 浩江

仙台うみの杜水族館の海獣ふれあいチームの海老澤美海先生、水処理設備管理チームの田口瑞稀先生を講師としてお迎えし、「水族館飼育員の仕事」について、スライド映像や実演を通して学びを深めました。

1. 水族館飼育員の仕事についてのお話



「水族館は博物館の仲間です」
意外と知らない事実。博物館と言えば、たくさんの展示物があります。水族館でも展示に力を入れていて、どのように見せたら来館者に興味を持ってもらえるのか、心に響く展示になるのか、創意工夫の日々です。皆さんも生きものに会いに来るだけでなく、博物館に訪れたイメージの目線で展示の仕方も楽しんでみてほしいとのことでした。

2. 水族館飼育員の仕事



うみの杜水族館では、「魚類チーム」「海獣ふれあいチーム」「パフォーマンスチーム」「水処理設備管理チーム」の4チームに分かれて仕事をしています。3つの「じ」（調餌、給餌、掃除）の作業をしながら、生きものの健康管理に気を配ります。食事の取り方が普段と違わないか、吐き戻しや血液の付着がないかなど、日々の観察が大切です。見落としは生き物の死に繋がるからです。
水族館といえば、思い浮かぶのは水槽です。水が要（かなめ）なのです。水処理設備管理チームでは、水質検査や水を反対方向に流す逆洗作業などを行い、常に綺麗な水を供給できるようにしています。実際のバルブ開閉体験や水の洗浄システムについても学びました。

3. 質疑応答



Q. 水族館飼育員になるにはどうすればよいですか？
A. 生きものについて学べる海洋生命学科の大学や、動物専門学校がよいと思います。持っていると有利になる資格としては、
＊スキューバダイビングのライセンス　＊潜水士　＊学芸員
＊普通自動車免許（準中型まで取得が望ましい）　などがあります。

4. まとめ

最後に先生から
「水族館飼育員の仕事について学びは深められたでしょうか？飼育員って、実は、人と接することも多いのです。大きな声で人に説明することや、体力と知力も必要です。敬語をしっかり使い、自分のやりたいことを伝えることも大事です。水族館飼育員の仕事は、大変なこともありますが、生きもののことをたくさんのお客様に知ってもらい、人との繋がりが生まれたときはやりがいを感じます。」というメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 私たちが見る表面的な水族館だけではなく、水処理など設備のことも知ることができました。　（青陵中 2年生）

○ 水族館の仕事は生きものとふれあうだけではなく、人との接し方も必要ということがわかった。　（上杉山通小 5年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B03

「ロケットエンジン開発に関わる仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**島垣　満　先生**
　　〔所属〕　**宇宙航空開発機構　角田宇宙センター**

■ 参加人数　33　人　　講座担当者　下田　里奈

「ロケットエンジン開発に関わる仕事」では、角田宇宙センターに勤務されている島垣 満先生を講師としてお迎えして、ロケット開発に関する専門的なお話をはじめ、仕事をするということの難しさや、困難を楽しむコツなど、これから様々な選択と経験に向き合うこどもたちに寄り添った、わかりやすく前向きなご講義をいただきました。

1.　ロケットエンジン開発に関わる仕事についてのお話



角田宇宙センター、つくば・種子島宇宙センターで行われているロケットに関する研究開発・実験についてのお話をお伺いしました。ロケットエンジンの燃料や重量など、スライドを見ながら説明を聞くうちに、こどもたちの興味関心が高まっていく様子が見られました。また、ロケットの完成には、多くの施設や人々が関わり、長い時間と大きなコストをかけて研究や開発、実験を重ねていることを知って、完成までの複雑な過程をイメージする機会となりました。

2.　ロケットエンジン開発に関わる物を見てみよう！



講座の後半には、ロケットエンジンのターボポンプに使用されるインデューサなどの実物部品も見せていただきました。一人一人が実際に手に取って重さや薄さを感じたり、「どのような素材が使われているのだろう」と疑問を持ったり、部品の金額に目を丸くしたりと、興味津々なこどもたちの姿が印象的でした。休憩時間になっても、講師席近くに置かれた部品の周りに集まり、様々な角度から部品を覗き込み、島垣先生に直接質問をするなど、興味を持って知識を深めようとする姿がありました。

3.　どんどん質問をしてみよう！



休憩時間の後にも、質疑応答の時間も設けていただきました。次々とこどもたちの手が上がり、こどもの頃から今の仕事を目指していたのかといった島垣先生ご自身についての質問をはじめ、ロケットが完成するまでの期間や、この仕事をするうえで気を付けていること、仕事の楽しいところなど、幅広い質問が飛び交いました。和やかな雰囲気の中で丁寧に質問に答えてくださり、ロケットや仕事について更に理解が深まる時間となりました。

4.　まとめ

ロケット開発という専門的な分野のお話だけでなく、仕事をするうえでの心構えや、どのような仕事に就いても国語力が必要であることなど、将来に繋がる貴重なお話もお伺いできました。ロケット開発の道を目指すこどもたちにとってはもちろん、異なる道を進むこどもたちにとっても、将来に役立つ学びの多い時間となりました。道はひとつではないこと、人と比べず過去の自分と比べること、こどもたちの心に響き、これからの歩みを後押ししてくれる学びとなりました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 今日先生のお話を聞いて、さらに不思議に思ったことがたくさんあったのでまた来年も来たい。（中野栄小学校　5年）

○ 今回の講座では「将来について」や「得るもの」について学ぶことができました。　（富沢中学校　1年）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B04

「保育士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　小林　築　先生、鈴木　彩圭　先生
〔所属〕　仙台市こども若者局幼稚園・保育部運営支援課

■ 参加人数　16　人　　講座担当者　針生　真由美

「保育士の仕事」では、仙台市こども若者局幼稚園・保育部運営支援課で勤務されている小林築先生と鈴木彩圭先生を講師としてお迎えしました。前半は、保育士の仕事について詳しくお話を聞き、後半は、だっこやおむつ交換等を実際に体験しながら保育士になるまでの過程等を教えていただきました。

1.　保育士の資格や勤務場所

保育士になるための資格や、どうして資格が必要なのかを学びました。一日のタイムスケジュールでは、実際に小さいこどもとの関わり方や、こんな事を言ってくれて嬉しかった等の体験談も交えながらのお話もあり、ほっこりする場面もありました。保育士は、保育園だけではなく、児童館等様々な場所でも勤務していることを教えていただきました。



2.　保育士としての経験談

保育士になるまでの流れや、保育園での一日の仕事を教えていただきながら、こどもたちの命を預かり、成長を支えていく、責任のあるお仕事であること、そのために資格が必要であることも学びました。また、実際にあった保育園でのエピソードやこどもたちから言われた話でとても嬉しかった経験も伝えていただき、保育士になって良かったことや、やりがいのある体験談などを聞いたことで、多くの受講者が保育士を目指したいと言っていました。



3.　実践体験

後半は、赤ちゃんのお人形を使って、哺乳瓶での授乳とおむつ交換、おんぶ体験を行いました。赤ちゃんの扱い方も丁寧に教えていただき、おむつ交換では、おむつをしっかりと腰にあてることに手こずりながらも、赤ちゃんを優しく触りながら丁寧に体験していました。受講者は自分の好きなエプロンを着用して、保育士になりきる体験もあり、終始和やかに、メモをとりながら真剣に先生のお話を聞いていました。



4.　まとめ

受講生の中に、ピアノが不得意の子もいましたが、ピアノが弾けなくても保育士になれることを聞いて、安心していました。また、保育士の仕事はこどもたちの気持ちに寄り添いながら自分たちで工夫をして、柔軟に対応し、環境を整えていることも学びました。最後に日々成長していくこどもたちを見守れることの嬉しさを伝えてくださり、愛情をもってこどもたちと関わることで成長をサポートできる仕事に誇りを持っている講師の姿が、受講生の心に響く講座となりました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 第一希望は薬剤師でしたが、今回の講座で「保育士も楽しそうな仕事だな」と思いました。保育士の仕事は、こどもたちや保護者によりそう大切な仕事だなと分かりました。　（黒松小　5年）

○ 保育士は大変だけど、子どもの笑顔で元気がもらえるので、自分の好きも生かせるやりがいのある仕事だなと思いました。　（田子小　5年）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B05

「WEBデザイナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**鈴木 拓真先生、漆畑 聖香先生**
〔所属〕　**株式会社メンバーズ**

■ 参加人数　16　人　　講座担当者　勝又 真吾

「WEBデザイナーの仕事」では、株式会社メンバーズで勤務されている2名の先生方と3名のアシスタントを講師としてお迎えしました。インターネットのバナー広告の作成方法等の仕事について詳しくお話を聞き、後半は、広告デザインの体験活動を行い、クライアントから依頼を受けてデザイン案を考え、プレゼンテーションするまでの過程を疑似体験しました。

1.　WEBデザイナーの仕事についてのお話

鈴木先生より、スライド資料を用いてWEBデザイナーの仕事について詳しくお話しいただきました。WEBデザイナーは情報機器端末を使った作業が中心の仕事というイメージを持ちがちですが、実際にはクライアントの要望をどのようにデザインへ反映するかを考えたり、より良い表現を目指して試行錯誤したりする時間が多いことを学んでいました。また、WEBデザインには技術だけでなく、相手の思いをくみ取る力や発想力も大切であることを学んでいました。



2.　基礎的なデザインづくりについて

漆畑先生より、デザインを考える際の基礎的な知識について教えていただきました。こどもたちは、デザインに用いる色やフォントによって、見る人に与える印象が大きく変わることを学んでいました。例えば、青色には知的で落ち着いた印象、赤色には情熱的で力強い印象を与える効果があることを知り、色彩が情報の伝わり方に大きく影響することを理解していました。また、「寒い」という同じ文字でもフォントによって受ける印象が異なることを実例を交えて示していただき、伝えたい内容に合わせてデザインを工夫することの大切さについて理解を深めていました。



3.　仙台市からのデザイン依頼を疑似体験

グループワークでは、仙台七夕まつりをPRするためのバナー制作に挑戦しました。こどもたちは、色やフォントが与える印象について学んだことを意識しながら、背景やキャッチコピー、装飾の配置を話し合い、七夕まつりの魅力が伝わるデザインを工夫していました。また、完成した作品をプロのデザイナーである講師にプレゼンテーションし、自分たちの意図や工夫した点を伝える貴重な経験となっていました。



4.　まとめ

鈴木先生からは、「詰め替え用のシャンプーを容器にうまく入れられなかった」という経験をきっかけに、「同じように困る人を減らしたい」と考え、デザインの仕事を志したというお話がありました。普段の生活の中にある小さな気付きが、新しいアイデアや人の役に立つデザインにつながることを教えていただきました。こどもたちにとって、身近な疑問や困りごとに目を向けることの大切さを考える機会となっていました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ WEBデザイナーの仕事について知ることができてよかったです。デザイン作りも楽しかったです。　（国見小　6年生）

○ フォントによって印象が変わることに驚きました。学校でのスライド作りにも生かしたいです。　（北仙台中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 B07

「ファッションデザイナーの仕事」活動紹介

■ 講師:〔氏名〕 **飯岡 智 先生、久道 優子 先生**

〔所属〕 **宮城文化服装専門学校**

■ 参加人数 26 人　　講座担当者 庄司 千穂

ファッションについての専門知識や技術を学ぶ専門学校の先生方をお迎えし、ファッションデザイナーの仕事について学びました。講座前半ではデザイナーが発想をどのように形にしていくのかというプロセスについてお聞きし、後半には色鉛筆を使って服のデザイン画を描くワークショップを行い、先生から直接アドバイスをいただきました。

1. ファッションデザイナーの仕事とは？



ファッションデザイナーとは、デザイナーの中でも服飾・ファッション分野のデザインを専門とする職業を指します。デザイン画を描くだけでなく、実際に裁縫を行う場合もあり、商品の完成や売上に対して責任の一端を担う重要な役割を果たしています。アパレル業界においては、ブランドの特徴を生かしつつ、流行や市場の動向を調査・分析する総合的な視点が求められるため、コミュニケーション能力も不可欠であることを学びました。

2. デザインの体験をしてみよう！



講座後半では、先生から提示された「水玉模様」をテーマに、デザイン画を描く体験を行いました。受講生は2～3色の色鉛筆を使って服のデザイン画に模様や色を加え、先生からアドバイスを受けながら、思い思いの作品を仕上げました。先生がホワイトボードにお手本となるデザイン画をさっと描き上げる姿には、皆の視線が釘付けになっていました。

3. 質疑応答



Q. 絵が上手でなくてもデザイナーになれますか？

A. 絵の上手さ自体はそれほど重要ではありませんが、たくさんの絵を描く必要があるため「描くことが好きであること」は大切です。

Q. デザイナーの仕事で大変なことは何ですか？

A. 他人の真似ではなく、自分自身の発想を生み出さなければならない点です。でも、その分作品が完成したときの喜びはとても大きいです。

4. まとめ

ファッションデザイナーの仕事には、服に関する知識だけでなく、世界の歴史や文化、スポーツなど幅広い分野の知識が求められるとのお話をいただきました。また、学校での勉強も自分自身の個性を磨き、将来の発想力を育むことにつながるため「今できることや興味のあることを大切にしてほしい」と受講生へ温かいメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 服の知識だけじゃなく今の勉強が大事だと分かりました。実際にかいてみてデザインするのは難しいと思いましたが、かくことができてすごく楽しかったです。個性が大事なんだと思いました。（北仙台小 5年生）

○ デザインをすることで生活がより良くなることが、実際にデザイン画にしてみて分かりました。将来ファッションデザイナーになるために、ミシンで小物を作ったり、デザイン画にデザインすることに挑戦したいです。（錦が丘中 2年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 B08

「薬剤師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　昆 貴志 先生
　　〔所属〕　仙台オープン病院 薬剤部

■ 参加人数　23 人　　講座担当者　河野 貴之

「薬剤師の仕事」では、仙台オープン病院の薬剤部で勤務されている昆貴志先生を講師としてお迎えし、薬剤師の仕事についてクイズや実践体験を交えながら楽しく教えていただきました。

1. 薬剤師の仕事についてのお話



昆先生より、スライドの映像を使って、薬剤師の仕事についてクイズを交えながら分かりやすくお話しいただきました。薬剤師は、医師が書いた処方箋が患者に合っている内容・量か、チェックして、患者に薬を出すことが仕事です。間違いなく薬を出すために、処方箋を書く医師と薬を出す薬剤師を分ける仕組みになっているそうです。また、薬の準備は必ずダブルチェックし、お薬手帳を見て危ない組み合わせはないか、過去に出された薬との飲み合わせを確認するそうです。こどもたちは、一生懸命メモを取りながら、講師のお話に熱心に耳を傾けていました。

2. 薬剤師ミッション体験



①輸液の開通に挑戦しよう！

点滴に使用する輸液は2層の袋に分かれており、袋を叩いて2層を開通し調合します。力が必要な作業だったので、こどもたちはグループで協力しながら楽しそうに実践していました。

②注射器を使ってみよう！



生理食塩液を注射器に取り入れる作業を体験しました。講師から操作方法や注意事項の説明を受けた後、食塩液がこぼれないよう、また空気が入らないように、慎重に作業していました。

③調剤体験をしよう！

処方箋を見て薬袋（やくたい）を作り、白色ワセリンを調剤する体験をしました。実演動画を見て調剤のポイントを学んだ後、木べらを使って小さな空の容器に白色ワセリンを詰める作業を体験しました。こどもたちは、細かい作業に苦戦しながらも、きれいに容器にワセリンを入れることができ、最後は皆満足そうな笑顔を見せていました。

4. まとめ

薬剤師の仕事は、「薬を使って人の命や健康を守る仕事」です。どうして薬剤師になったのかというと、人の役に立ちたかった、小さいころから薬は身近にあった、薬の力に驚いた、手に職をつけたかった、将来もずっと必要とされる仕事で社会を支えたかったなど、いろいろなきっかけがあって薬剤師になりました。薬剤師になるには、大学薬学部で6年間学び、国家試験に合格する必要がありますが、宮城県は薬学部が2つもあり恵まれています。世の中にはいろいろな仕事がありますが、誇りと自信を持って仕事に就いてほしいと思います。（講師の昆先生から）

5. 児童生徒の感想紹介

○ もっとたくさん学んでいろいろなことを知って、薬剤師になって患者さんの命・健康を守りたい！と思いました。これからも将来の夢に向かってもっと頑張りたいです。（福岡小 6年生）

○ 薬剤師の使命や細かな作業、チェックなどを知り、繊細な人間の体と薬について日々考えてくださっている人がいるからこそ、私たちが安心して生活できていると分かりました。私も自分の進路に向かって努力していきたいです。（秀光中 3年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B09

「児童文学の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　佐々木 ひとみ 先生
　　〔所属〕　児童文学作家

■ 参加人数　17 人　　講座担当者　伊世 貴志

「児童文学作家の仕事」では、児童文学作家として仙台を拠点に創作活動をされている佐々木ひとみ先生を講師としてお迎えし、作家の仕事やふるさとの魅力を伝える思いについて詳しくお話を聞きました。前半は児童文学作家になるまでの歩みを学び、後半は「物語の種」を見付けるために、受講生同士がインタビューし合い、発表する体験活動を行いました。

1. 児童文学作家になるまでの歩み



茨城県の豊かな自然が残る山里で育った先生は、こども時代に絵本や児童文学、漫画など多彩な本に触れたことで、執筆活動への憧れを抱くようになりました。コピーライターとしての経験を経て、どこかの誰かに「心の支え」となる物語を届けたいという決意のもと、多様な文学やこども向けの物語を手掛けるようになります。生まれ育った地域に眠る「宝」の存在を意識した先生は、その魅力を掘り起こして自分ならではの物語へと昇華させたいという思いを深め、地域の価値を伝える児童文学を数多く生み出してきました。

2. 作家にとって大切なこと ～「物語の種」を見付ける～



作家にとって大切なことは、「面白い」と思ったことを「物語の種」として、たくさん見付けることだそうです。面白いと思ったことを発端に、それに関する資料を集めたり現地に赴いたり、携わる方々に取材したりします。そうして得られた種から、また新たな種を見付け、見付けた種をどんどん掘り進め、育てていきます。作家という仕事は、執筆している時間以外は、できる限り多くの種を素早く見付けて深堀りしていきます。そのために常にアンテナを高くして、どんなことにも興味を持ち、面白がることが大切だということです。

3. 作家体験「取材をして面白い！と感じたことを発表しよう」



郷土の魅力を詰め込んだ物語を作る鍵は、地元の人に話を伺い「これは！」と思える魅力を見つけ出すことにあります。それを実感する試みとして、ペアを組んだ相手に2分間質問を投げ掛け、「物語の種」となりそうな情報を探して1分で発表する活動を行いました。その場で初めて出会った相手に緊張した面持ちを見せつつも、ニックネームや好きなこと、趣味などを聞き合い、発見したことを披露しました。

4. まとめ

佐々木先生は「自分が育った場所に興味を持ち、愛着を抱けるようになると、自分自身の生き方に誇りを持てるようになります。ふるさとを大切にする心が、人としての確かな根を育ててくれます。地域の『今』をこども向けの物語に紡ぐことで、一度は失われた風景や文化を未来に再生させる手立てになるかもしれない。そんな希望を物語に託し、児童文学を通して郷土のすばらしさを伝え、仙台・宮城を応援したい。」という熱い想いを伝えてくださいました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 今まで自分から発表をしたりすることが少なかったので、これを機にたくさん発表したいと思えました。（西山小　6年生）

○ 本を書くときは「面白がる心」を持つことが大切だと知りました。周りに興味を持ち「物語の種」を見付けたいです。（上杉山中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B10

「洋菓子職人の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**渡邉　靖水　先生**
〔所属〕　**(有)とびばいさ甘座**

■ 参加人数　21　人　　講座担当者　星　博子

「洋菓子職人の仕事」では、仙台の定禅寺通にある「とびばいさ甘座」で工場長としてお勤めの渡邉靖水先生を講師としてお迎えし、洋菓子職人になるまでや、なってから努力されていることなどについてお話をしていただきました。マジパン(砂糖とアーモンドの粉末で作るペースト状のお菓子)を使っての実演では、あっという間に美しいバラやかわいいクマの飾りを仕上げるなど、職人の技を披露してくださいました。

1.　洋菓子職人の仕事

渡邉先生より、洋菓子職人の仕事について詳しくお話しいただきました。洋菓子職人の仕事は、お菓子の製造から販売まで多岐にわたり、春夏秋冬の季節に合わせた商品開発のほか、最近は「せんだいメディアテーク」とコラボしたお菓子の製造・販売など、地域に根ざした取組も行っているそうです。先生からの「お菓子は幸せをつなげるもの。みんなが笑顔になってくれるとうれしい」という言葉を、こどもたちは真剣な表情で聞いていました。



2.　洋菓子職人になるため

洋菓子職人になるための道のりについてのお話を聞きました。先生からは「思い立った時がスタート」であり、ケーキ屋さんになるという夢を叶えるだけでなく、「ずっとケーキ屋さんであり続けること」の大切さを教えていただきました。また、資格は何歳からでも挑戦できるが、お菓子を作る技術だけでなく、元気が一番であることや職場のみんなを思いやる気持ちも欠かせないことを伝えてくださいました。先生の経験談を通し、こどもたちは「夢に向けていろいろなことに挑戦したい」と決意を新たにした様子でした。



3.　洋菓子職人の技～マジパン細工～

講座の後半では、渡邉先生のすばらしい技を目の前で見学しました。一粒の小さなマジパンが、あっという間に美しいバラや可愛らしいクマに仕上がっていく様子に、こどもたちは目を輝かせて見入っていました。また、写真で見せていただいたケーキやシュガークラフトの細かさにも驚いていました。プロの方でも、毎日練習を続けているというお話を聞き、努力の大切さについても学ぶことができました。



4.　まとめ

洋菓子職人はお客さんを笑顔にし、自らのセンスを生かして挑戦・成長し続けられる魅力的な仕事です。「お菓子は幸せをつなぐもの。喜んでもらえることが一番うれしい」という言葉や体験談を通し、仕事の喜びや苦労、実際の働き方など幅広く教えていただきました。こどもたちからの質問にも丁寧に応答してくださり、ケーキ屋さんを夢見るこどもたちが、職人の想いに触れ、将来への夢を膨らませる充実した講座となりました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 洋菓子職人は、人を笑顔にさせるすてきな職業だとあらためて分かった。　（広瀬小　5年生）

○ 将来洋菓子職人になって、いつか自分の店を持って、お客さんを笑顔にしたいです。　（北仙台小　5年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B11

「和菓子職人の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**森谷　隆之　先生**
〔所属〕　**仙臺菓匠庵　菓心モリヤ**

■ 参加人数　18　人　　講座担当者　後藤　亮甫

「和菓子職人の仕事」では、仙臺菓匠庵　菓心モリヤで和菓子を作っている森谷隆之先生を講師としてお迎えし、実際に和菓子「練り切り」を作る体験をしました。こどもたちは森谷先生の周りに集まり、実際に和菓子を作る姿を見ながら、和菓子についての話を聞いたり、質問をしたりしました。

1.　和菓子作りの実演



和菓子づくり体験では、「桜の練り切り」に挑戦しました。はじめに森谷先生が実演しながら作り方を説明してくださいました。練り切りづくりでは、餡が乾きやすいため手早く作業することや、白とピンクの餡の使い方によってグラデーションの色合いが変化することなどが重要なポイントだそうです。森谷先生の熟練された手さばきに、こどもたちは感動した様子でした。

2.　和菓子作りを体験



餡を丸めて手のひらにのせ、その中に別の餡を包み込むようにして形を整えながら、3色の餡を一つにまとめていきました。餡が乾きやすいため時間との勝負であり、やり直しも難しい作業でしたが、こどもたちは森谷先生の手の動きを思い出しながら真剣な表情で取り組んでいました。作り始めは不安そうな様子も見られましたが、桜の形をした練り切りが完成すると、満足そうな笑顔があふれていました。さらに、森谷先生から「みんな上手だね」と声をかけられると、こどもたちは一層うれしそうな表情を見せていました。完成した練り切りは、お土産として持ち帰りました。

3.　和菓子を作りながら質問に答える



森谷先生は、菊や鶴の和菓子を目の前で作りながら、和菓子の魅力についてお話ししてくださいました。和菓子が登録無形文化財に登録されたことや、森谷先生のもとには様々な国の方が和菓子づくりを学びに訪れることなどを教えていただきました。また、「一つの和菓子を作る時間はどれも同じ」というお話に、こどもたちは驚いた様子でした。特に、見た目にも複雑な菊の和菓子が同じ時間で作られると知り、その技術の高さに感心していました。さらに、目の前で次々と形づくられていく様子を見て、驚きの声を上げる場面も見られました。

4.　まとめ

登録無形文化財への登録をきっかけに、和菓子への注目が高まっているそうです。森谷先生の唯一の弟子であるフランス人の方は、今までの仕事を辞めて、小さいころから憧れていた菓子職人の道を選んだそうです。森谷先生は、「自分がやりたいと思い行動することは悪いことではない。いつでもやり直せる時間はあるので、自分のやりたいことを見つけてほしい。」と話してくださいました。こどもたちは和菓子の魅力や奥深さを身近に感じると同時に、和菓子づくり以外にも通じる先生の思いに触れることができました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 和菓子職人になるのは大変だと思いました。でも、いつか和菓子職人になって和菓子を作りたいです。　（上野山小　6年生）

○ 和菓子はなんか遠いものに感じていたが、今回の体験を通して、意外と身近にあるものということが分かった。（五橋中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　B12

「自衛隊の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**今田　潤　先生、上間　大成　先生、佐藤　圭先生、岩田　柚里佳　先生**
〔所属〕　**防衛省自衛隊宮城地方協力本部**

■ 参加人数　23　人　　講座担当者　高橋 由臣

「自衛隊の仕事」では、陸上、海上、航空、それぞれの部隊に勤務されている今田潤先生、上間大成先生、佐藤圭先生、岩田柚里佳先生4名の先生を講師としてお迎えしました。前半は、国防や国内自然災害から国民の命を守る仕事について詳しくお話を聞きました。後半は、装備品の着用やフェイスペインティングの体験、個別の質疑応答等を行い、自衛隊の仕事に直に触れることができました。

1.　自衛隊の仕事についてのお話



今田先生より、スライドの映像を使って、自衛隊の仕事について詳しくお話しいただきました。自衛隊の仕事は、外国からの国防、海外有事における後方支援、国内の災害派遣など多岐にわたり、職務に応じた様々な部署があります。各部署の詳しい仕事の内容や自衛隊独自の敬礼方法を学びました。途中、クイズや質問の受け答えを交えながら、楽しく学ぶことができました。

2.　自衛隊の体験①（隊員服の着用やフェイスペイント）



活動で使用する隊員服を着用しました。陸上自衛隊は森に紛れる緑の迷彩服、海上自衛隊は水辺に紛れるブルーの迷彩服、航空自衛隊は滑走路に紛れる灰色の迷彩服になっています。活動時のフェイスペイント体験も行いました。

自衛隊員は23万人で構成されていて、病院の先生、学校の先生、歌手、音楽隊、気象予報士など100種類以上の役割を持つお仕事があるそうです。

3.　自衛隊の体験②（装備品着用）



装備品着用体験では、自衛隊員が使用するリュックサックやスコップ、双眼鏡を実際に使用してみました。陸上自衛隊の装備を着用して歩行すると、まっすぐ歩くことが難しいほどの重量感がありました。海や川を泳ぐ訓練もあり、隊員さんたちの日々の訓練の大変さを実感することができました。

4.　まとめ

自衛隊の仕事は、国民の未来と幸せを守る大事なお仕事です。時には困難な事も、くたくたになる事もあります。でも、国民や家族を守るとても大事な仕事だと思っています。自衛隊は戦う組織ではありません。戦うことを目的として入隊しないでください。自衛隊は自己能力を高める訓練をして、他国が日本を攻めても無駄と思わせる抑止力を高める目的の組織です。受講生の皆さんは学校の授業をちゃんと聞いて、自分ができる事の幅を広げてくれたら嬉しいです。（講師の今田さんから）

5.　児童生徒の感想紹介

○ 国の守る考え方が今日で変わりました。国を守る自衛隊がかっこいいと思いました。　（市名坂小　5年生）

○「戦う集団の自衛隊ではなく、国民を守るために自衛隊がある」だから平和に暮らせていることを知った。（仙台青陵中　3年生）